

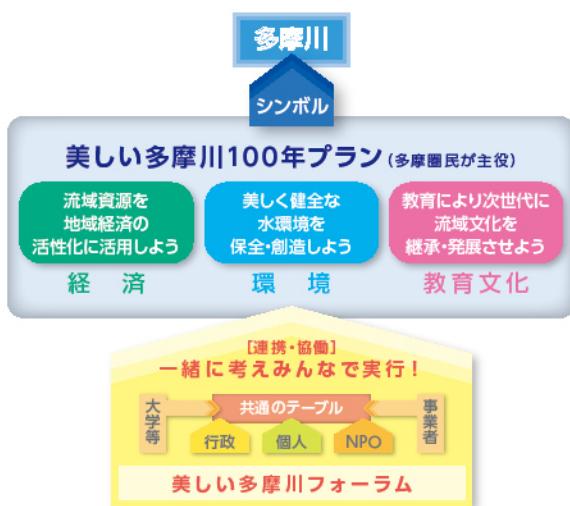
あおしんが応援する “美しい多摩川フォーラム”



あおしんは、地域の活性化と自立を目指し、2007年7月、官民により設立された「美しい多摩川フォーラム」(事務局は当金庫)の地域づくり運動を応援しています。この運動の柱となっている「経済・環境・教育文化」の3つの観点からボランティア活動に積極的に参加し、持続可能な地域社会の実現に努めています。

美しい多摩川フォーラムとは

美しい多摩づくり運動の進め方



美しい多摩川フォーラムは、悠久の母なる川として地域で最も共感が得られる“多摩川”というコモンズ(共有資源)をシンボルに掲げ、多摩川水系の流域周辺地域の各主体とイコール・パートナーとして連携・協働しながら、「美しい多摩づくり運動」を経済、環境、教育文化の3つの観点から展開しています。

運動の3本柱

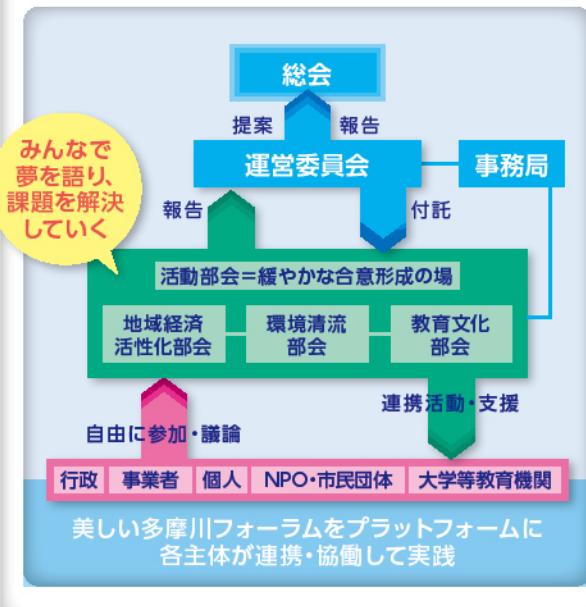
経済

環境

教育文化

私たちは、進化・発展する基本計画「美しい多摩川100年プラン」のもと、経済、環境、教育文化を運動の3本柱に据え、水環境を守りながら、地域経済の活性化に取り組み、そして、次代を担う子どもたちへの教育を通じて、地域の人々(多摩圏民)が生きがいを持って、自立した生活が送れるよう、「持続可能な地域社会」の実現に貢献します。

美しい多摩川フォーラムの組織と合意形成の流れ



個人の役割

身近な水環境の現状を認識・理解するとともに、環境に負荷をかけないよう、身の回りの問題から環境保全活動に取り組みます。また、次代を担う子どもたちが、自然の中で遊びながら、地域環境や生命の大切さを学び、地域に対する愛着や誇りを育んでいきます。こうした取り組みを通じて、ゆたかな暮らしが実現するよう、行政や事業者等と連携・協働して、活気のあるまちづくりに取り組みます。

事業者の役割

地域で事業を営む企業・事業者は、事業を通じて地域社会に貢献するとともに、その事業活動が環境資源に負荷をかけていることを認識し、いかに地域と共生していくかを考え、企業の社会的責任(CSR)を果たしていく必要があります。特に、環境保全活動や地域づくり活動等に参加し、協力します。

行政の役割

まちの活性化(まちづくり)、環境の保全・創造、教育文化の向上など、複雑・多様化する地域の課題に適切に対応するため、広域的な自治体等との連携・協働活動を通じて、「美しい多摩づくり運動」に参加し、協力します。特に、情報共有を促進し、行政のホームページや広報誌を通じて市民への広報・啓発に努めるほか、広く地域において、研究や学びの場を提供します。

美しい多摩川フォーラムの活動

経済

多摩川夢の桜街道～桜の札所・八十八カ所巡り



2019年4月5日、多摩地域の活性化を目的として、サンケイリビング新聞社との共催で、桜守と歩く“桜の札所巡り”を開催。JR武蔵小金井駅からスタートし、参加者の皆さんには、野川の紅枝垂れ桜と都立武蔵野公園を巡るガイド付き桜ウォーキングをお楽しみいただきました。

“多摩川酒蔵街道”のキャンペーン



“美しい多摩づくり”の秋のシンボル事業として、西多摩に点在する5つの酒蔵を紹介するとともに、秋の紅葉や温泉を満喫しながら巡る旅を“多摩川酒蔵街道”と名付けて実施しました。初めて実施した酒蔵巡りスタンプラリーは好評を博しました(2019年9月1日～12月31日)。

環境

多摩川一斉水質調査



2019年6月2日、「地球環境問題への取り組みは、身近な水辺の実態認識から」という考え方のもと、「第12回多摩川一斉水質調査」を実施、採水班(多摩川流域各地点)と測定班(調査会場の本店)に分かれ、多くの役職員が参加しました。同年11月1日にCOD(化学的酸素要求量)348地点の調査結果を水質マップとして公表しました。

多摩川“水”大学講座



2019年5月17日、「水環境のリーダー」の養成を目指して、第8回多摩川“水”大学講座(年間全5回、府中市と共に開催)の初回を開催しました。修了生は延べ98名となり、地域のリーダーになることが期待されます。

教育文化

「多摩の物語」の語り会



2019年9月6日、府中市において、多摩川流域の歴史や文化を知り、郷土愛を育んでいくことを目的として、「第5回多摩の物語」の語り会を開催しました。語り部16名が、多摩川流域に伝わる昔話や民話をわかりやすい「語り」としてお届けしました。

多摩川子ども環境シンポジウム



2019年12月7日、フォレスト・イン昭和館(昭島市)にて、多摩川流域の子どもたちが“多摩川”をテーマにした環境・文化・歴史などを発表する「第12回多摩川子ども環境シンポジウム」を開催しました。また、2020年3月、発表内容を取り纏めた「みんなの発表誌」と多摩川流域のイベントを取り纏めた「多摩川っ子」を合併号として発行しました。